

紙芝居『おとめ地蔵』の里

# 『乙女地蔵』をたずねて



平塚市との境に近い大句バス停の近くに、五反田と呼ばれる田がありました。五反田とはその面積が5反（約50アール）あるところから名づけられたもので、すべてを手作業で行わなくてはならない昔にあっては、このような広い田を扱うのは並大抵のことではありませんでした。

この五反田にまつわる伝説として『乙女地蔵』の話は伝わっています。また、この伝説は伊勢原だけではなく、『日招き伝説』などとして、全国各地にあるようです。

現在、乙女地蔵は、五反田のかたわらの道を上ったところにある芳圓寺の入り口に安置されています。また、境内にはかつて丈六の大地蔵が鎮座していました。その地蔵は享保2年（一七一七）に信州高遠の石工、北原四方之丞（きたはらよものじょう）らによって刻まれたものでしたが、損傷が激しく、令和2年に撤去されました。ただし北原四方之丞の名は、坪ノ内養国院にある多宝塔にも見ることができます。



（芳圓寺の入り口に安置されている現在の乙女地蔵）

【参考資料：「史跡と文化財のまち いせはら」】